# 茨大生×地域防災プロジェクト
# ～日常＋αで命を繋げる～

代表者：人文社会科学部法律経済学科　３年　中橋彩乃

連携先

なし

参加者

上野　真果
(工学部都市システム工学科１年)
岡野　ひなた
(工学部都市システム工学科１年)
高村　美涼
(工学部都市システム工学科１年)
那須　玄
(工学部機械システム工学科１年)
田澤　玲菜
(人文社会科学部現代社会学科１年)
矢幅　彩花
(人文社会科学部現代社会学科１年)
岡田　祐輔
(人文社会科学部現代社会学科１年)
石嶋　千恵
(人文社会科学部法律経済学科１年)
内桶　晴人
(人文社会科学部法律経済学科１年)
川上　藍
(人文社会科学部法律経済学科１年)
貞政　良
(人文社会科学部法律経済学科１年)
矢口　真衣
(人文社会科学部法律経済学科１年)
加茂　佐代子
(人文社会科学部人間文化学科１年)
栗原　佳宏
(理学部理学科１年)
名取　日菜
(理学部理学科１年)
藤根　大己
(工学部機械システム工学科２年)
栗田　咲希
(人文社会科学部現代社会学科２年)
赤澤　恵那
(人文社会科学部法律経済学科２年)
荒井　天雄
(人文社会科学部法律経済学科２年)
粟村　穂乃香
(人文社会科学部法律経済学科２年)
遠藤　航
(人文社会科学部法律経済学科２年)
大森　開
(人文社会科学部法律経済学科２年)
小倉　勇輝
(人文社会科学部法律経済学科２年)
具志堅　光
(人文社会科学部法律経済学科２年)
服部　帆高
(人文社会科学部法律経済学科２年)
松原　日向子
(人文社会科学部法律経済学科２年)
宮本　優里
(人文社会科学部法律経済学科２年)
森田　彩未
(人文社会科学部法律経済学科２年)
小池　さくら
(人文社会科学部人間文化学科２年)
渡邊　千尋
(教育学部国語専修２年)

日賀野　頼巴
(理学部理学科２年)
坂井　映里奈
(理学部理学科２年)
赤羽　祐介
(理学部理学科２年)
町田　天斗
(農学部食生命化学科３年)
佐藤　綺音
(人文社会科学部法律経済学科３年)
中橋　彩乃
(人文社会科学部法律経済学科３年)
三宅　彩
(人文社会科学部法律経済学科３年)
吉田　彩乃
(人文社会科学部法律経済学科３年)
中三川　瑞樹
(人文社会科学部人間文化学科３年)
久保田　大貴
(工学部メディア通信工学科３年)
吉田　祥太
(理工学研究科理学専攻１年)

プロジェクトの概要

●背景

私たち茨大東北ボランティア＊Fleur＊は昨年度の学生地域参画プロジェクト内において，講師を招き講演会を行った。その中で，東日本大震災の体験を聞き共感することももちろん大切であるが，教訓から知識を身につけ，緊急時に行動出来るようになるということが最も重要視されるべきであると感じた。

今年度は昨年度のテーマ「被災地と繋がる」から一歩前進し，「被災地から学び，身につける」機会を作りたいという思いで本テーマを設定した。

●活動内容

・開催日時：12 月 14 日 12：00～14：30
・会場：茨城大学図書館
・内容：防災ワークショップ

●宣伝方法

１１月中旬，宣伝活動のためにポスターや配布するビラの製作に取り掛かった。ポスターは昨年のものを参考にデザインを考案し，大学内の掲示板(各学部棟・共通教育棟)にて掲示した。また，水戸キャンパスのみならず日立・阿見キャンパスの学内掲示板にもポスターを設置し，さらなる集客を図った。学外では県庁や水戸市内の各市民センター(渡里，堀原，石川，常磐，国田，柳河の６つ)にも協力してもらうなど，外部機関とも連携して当プロジェクトの宣伝を行うことが出来た。

配布するビラについても当プロジェクト担当のメンバーが中心となってデザイン・制作し，大学生協前やキャノピー広場にての宣伝活動は他の Fleur メンバーとも協力して平日のお昼休みの時間を利用して行った。

主に Twitter や Facebook を用いた SNS 上での情報拡散も行い，これら以外にも茨大東北ボランティア＊Fleur＊の顧問である伊藤哲司先生が担当する授業の冒頭でも宣伝活動を行うなど，学内・学外・インターネットを通じた精力的な宣伝活動を行うことが出来たと言える。

**写真１　宣伝ポスター**

●当日の内容

開会の挨拶後，＊Fleur＊メンバーによる今年度の活動紹介が行われ，事前に＊Fleur＊メンバーに行ったアンケート調査の結果の発表では，それぞれが考える復興の在り方や東北と向き合う姿勢を周知すると共に再確認することができた。

その後，ICAS 機関長であり，人文社会科学部現代社会学科教授の伊藤哲司先生を講師として，座談会を行った。この座談会では，水戸市にも甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風（気象庁より）についても触れた。また，防災の在り方としては建造物を整備することで災害を防ぐハード対策や災害情報や避難場所を整備することで行うソフト対策だけでなく，自ら避難する力や判断力が今後は重要になると述べ，ひとりひとりの防災意識の大切さを訴えた。

そして，個人の避難する力を養うためのワークショップである茨城大学周辺地域の「逃げ地図づくり」を行った。土地ごとの地形，交通の特性や避難所との位置関係により，最適な避難経路が異なることを知った。

各グループ内での話し合い後，全体での意見交換が行われると大人数ならではの多方面からの意見を知ることができ，決して個人では気づくことのできない危険性や注意点を共有することができた。そして，最後に今回の企画のアンケート調査を行い，幕を閉じた。

●感想

今回の企画では，個人の防災意識に焦点を当てこれまでのワークショップよりも現実感があり，かつ有用性の高いワークショップを行うことができ，＊Fleur＊メンバーはもちろん一般の方の防災意識向上を促すことができた有意義な時間であった。

**写真２　ワークショップの様子**

プロジェクトの成果報告

ワークショップ終了後に参加いただいた方へ，アンケートの回答をお願いした。 アンケートの結果を以下に一部紹介する。

●アンケート結果

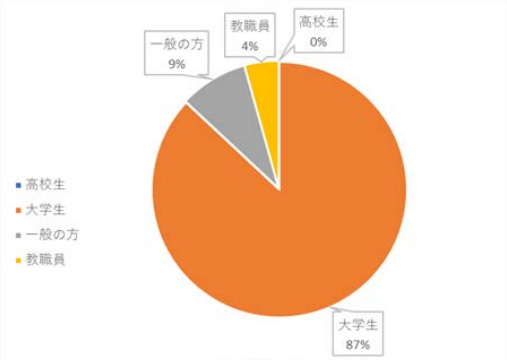

図 1 参加者の所属

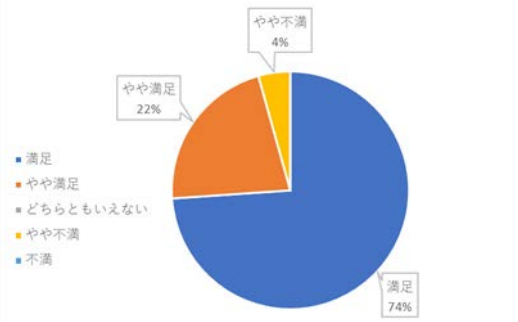

図 2 満足度

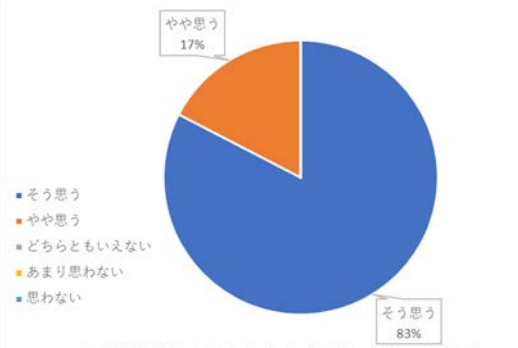

図 3 今後もこのような企画に参加したいと思うか

本企画には計 23 名の方が参加された。内訳は，大学生が 20 名，一般の方(地域の方)が 2 名，茨城大学教職員の方が 1 名となっている(図 1)。

企画の満足度に関しては，満足と回答した方が 17 名，やや満足と回答した方が 5 名(計 96%)，やや不満と回答した方が 1 名(4%)となった(図 2)。全体では今回の企画に高い満足度を感じていただくことができた。

今後もこのような企画に参加したいと思うか，という質問では，そう思うと回答した方が 19 名(83%)，やや思うと回答した方が 4 名(17%)となった(図 3)。

以上のような結果から，本企画では広報活動が今後の課題として挙げられる。参加者の 9 割近くが大学生であり，一般の方(地域の方)が 2 名のみとなった。今回の企画では，“地域で行う防災活動”を目的の 1 つとしていたため，より多くの地域の方へ参加していただけるよう学外での広報活動においてさらに工夫が必要であった。また今回行った逃げ地図作りでは，事前の申し込みによって把握した参加者の居住地区を中心に，ワークショップで使用する地図を準備した。そのため，当日参加された方の居住地区の地図が準備できなかったことが，企画満足度で一部低い評価を頂く結果につながったのではないかと考えられる。

本企画のような防災ワークショップの参加については前向きな意見が多くかった(図 3)。そのため，今回の課題を生かし，我々がボランティア活動を通して感じたこと・学んだことを伝えるとともに，より多くの人と防災について考える機会を今後も作っていきたい。

●今後の展望

今回の企画のように，自助と共助の幅を広げていくことに少しでも役に立つような企画を今後も開催していきたい。今回，参加して下さった方の多くが，「また参加し

たい」という，嬉しい意見をくださった反面，大学生が大半を占め，地域の方々の参加者が少ない現状がある。地域の方々あっての地域防災であるため，広報活動により力を入れていきたい。また，伊藤哲司先生より，台風 19 号（ハギビス）の被害にあった地域に花を植える活動をともに企画しないかとお話をいただいている。この活動をはじめとし，様々な企画を地域とともに行っていきたい。